



# 信楽園病院だより



第202号 平成30年1月1日 発行

〒950-2087 住所 新潟市西区新通南3丁目3番11号 TEL 025-260-8200 FAX 025-260-8199

E-mail [renkei@shinrakuen.com](mailto:renkei@shinrakuen.com) ホームページアドレス <http://www.shinrakuen.com>

## 新年のご挨拶

信楽園病院 院長 宮崎 滋

新年明けましておめでとうございます。昨年1年間の出来事を報告いたします。

4月には基幹型臨床研修病院として昨年は、2年目の研修医1名に加え1年生を3名迎えることができました。協力型としても新潟大学病院から2名、新潟医療センターから腎臓内科の研修医2名を迎えることになり、かなりにぎやかになってきました。今年、4月には1年生4人が更に増える予定です。

地域の方々にご協力をいただいていますロビーコンサートも多彩なグループから出演いただき、10月には第10回の病院祭も開催できました。

今年もまた学会ネタになりますが、同僚の腎臓内科医の演題が採択されたため私も11月のニューオリンズでの米国腎臓学会に参加しました。私はいつも同行する先輩が直前に行けなくなったため一人旅でしたが、たまたま同じホテルだった同僚のSご夫妻が気を使ってくださり3日間、昼、夕食を付き合ってくださいました。ニューオリンズはジャズ発祥の観光地で、料理も通常のアメリカ料理だけではなく、大衆的なケイジャン、やや高級なクレオールというフランス料理の流れをくむ料理が有名です。3人で摂った夕食は3日共にシーフードでしたがメインのハリバット（おひょう）、ドラムなど日本では食べられない種類の魚でどれもおいしいものでした。特にドラムは帰国してから調べると、ニューオリンズ近郊の湖で取れる淡水魚らしいのですが軽くムニエル風にしてあるためか魚臭さは全くなく、しっとりとした上品な脂が乗っていて非常においしいものでした。メインもおいしかったのですが、前菜に摂ったガンボスープが本来は大衆的な料理のはずが、クレオール風のレストランで食べたためかシーフードのダシが良く利いていて洗練された味と香りでした。私は3日間続けてガンボをいただきましたし、ガンボスープの料理本を土産に買いました。一日目の夕食後にはあの真面目なSご夫妻に誘われ、ジャズクラブで典型的なニューオリンズジャズを名物のハリケーンというカクテルと共に楽しみました。



土曜日の同僚のポスター発表では意表をつく内容の研究だったためかアメリカ人、ドイツ人などの外国人研究者が6人も狙い定めたように集まってきて様々な質問をしていました。Sご夫妻は日曜日に帰国しましたが、私は月曜日のチケットしか手に入らなかったため日曜日はフレンチクォーターで一日過ごしました。毎年の学会と同様にまたまた偶然ですが、散歩中に鉱物販売店を見つけ2品ほど購入しました。午後には、フレンチクォーターの特にロイヤル通りではジャズバンド、バイオリン、手品、独唱などの大道芸人が多数演技をしていて飽きる暇がなく、更に通りのバーでは昼間から店外でも酒盛りをしていてにぎやかでした。危険な感じは全くなく、私も仲間に入ろうかと思うほどでした。

今年の3月で信楽園病院透析室は開設50周年を向かえ記念式典を行う予定です。信楽園病院は今後も地域の皆様に信頼される病院であり続けることを願っています。

